

2016年3月期 決算説明会 質疑応答概要



2016年3月期 業績について

Q 1. 2016年2月10日に発表した業績予想に対し、売上高・営業利益が上振れした要因について教えてください？

A 1. 売上高については、3月の国内売上が想定以上に好調だったことが主な要因です。利益面については、3月にかけて為替が円高に推移した為、好調だった国内において海外工場からの仕入原価が下がり、営業利益を押し上げました。また、3Qから4Qにかけて海外販社等の在庫圧縮が進み、未実現利益の消去額減少が売上総利益増加に繋がったものです。

足元の受注状況について

Q2. 2016年1月、3月に中華圏からの大口受注があったとのことですが、足元の受注状況はいかがですか？

A 2. 2016年1月、3月に中華圏からスマートフォン・車載関連の大口受注があり受注台数が回復傾向にあり、4月も同様の状況が続いています。中華圏については、春節明けから設備投資需要が増えてくるため、夏場にかけて受注が増加する傾向にあります。

Q3. 他社ではスマートフォン向けの需要が低迷しているとのことですか、御社が好調な理由はございますか？

A 3. ハイエンドのスマートフォン向けの需要は一服感があると感じておりますが、中華圏のスマートフォンメーカーは、中国市場において販売台数・生産台数を伸ばしており、引き続き設備投資需要が見られます。当社は従来より中国のローカルメーカーに多くの機械を納品しており、中華圏においては、当社の機械を使用しているユーザーが多くいます。当社の機械を使い慣れた多数のユーザーの存在が、中華圏の設備投資需要を取り込めている要因の一つだと考えられます。

2017年3月期 業績予想について

Q4. 2017年3月期は、営業利益58億円を計画していますが、研究開発費4億円の増加、前期のタイバーツの為替変動による仕入原価の低下の恩恵がなくなる等、減益要因があるにもかかわらず、営業利益が前期比約5億円減の58億円にとどまる要因は何でしょうか。

A4. 2017年3月期の売上高については、為替レートを前期よりも円高に想定しているため、外貨建て売上を円換算する際に生じる円高の影響として30億円程度の減収を考慮し、655億円を見込んでおります。

また、産業機械事業において、原価低減活動を推進しており、2017年3月期においても収益力の改善が見込まれます。食品機械事業においても、新工場の立上げにより生産効率改善を見込んでおり、営業利益を一部押し上げる要因になると考えます。

中期計画について

Q5. 2018年3月期は、営業利益が大幅に増加する計画となっておりますが、要因について教えてください。

A5. 金属3Dプリンタ事業の収益力の改善を見込んでいます。現在、当社は金型向けをターゲットに、金属3Dプリンタを販売しておりますが、今後はより市場規模の大きな部品加工の分野まで裾野を広げていきます。部品加工よりも加工精度を要求される金型で実績を上げることにより、部品加工からの需要が取り込めると考えています。また、産業機械事業において、海外向けの売上を伸ばし、収益力を高めていきます。現在、当社の産業機械事業の海外売上高比率は50%程度と他社に比べて低く、海外市場での成長が期待できます。海外市場のニーズに合わせた製品を開発・販売し、マーケットシェアを高めていきます。

■ 金属3Dプリンタについて

Q6. 金属3Dプリンタの2016年3月期の実績と2017年3月期の目標について教えてください。

A6. 具体的な機種別の販売台数についての開示は行っておりませんが、2016年3月期は30数台出荷しています。1/3程度が外部売上として計上しており、約5億円の実績となっています。残り2/3は当社及び当社グループ内で加工条件を取るための設備、金型の受託加工用の設備として導入したものの、まだ検収が上がっていないもの等がございます。また、金属3Dプリンタは、全く新しい機械ということもあり、輸出手続きに想定以上の時間がかかる場合があります。

2017年3月期は出荷台数50数台を見込んでおります。一部、グループ会社であるソディック・エフ・ティの金型成形事業への設備を導入することも検討しておりますが、大半は外部向けに出荷を予定しております。今期から欧州・北米での販売を本格的にスタートさせます。欧州は金属3Dプリンタの先行市場であり、既に多くの他社製品がございますが、当社機械の優位性をうまく説明することにより、販売を拡大させていけると考えています。

Q7. 大型化や金属粉の種類が増加など、金属3Dプリンタの開発テーマは様々あると思いますが、これから1.2年ほどで注力していきたいのは、どのようなところでしょうか。

A7. 金属粉の種類については、金型用ではマルエージング鋼が適していますが、部品加工にはアルミやチタンなど他の材料が必要になります。この中でも、チタンは航空機関連でよく使われる材料になりますので、そこを強化していきたいと思います。また、大型化については、対応できる機械の開発を進めております。

■ 金属 3 Dプリンタについて

Q8. ソディックの金属3Dプリンタの優位性について教えてください。

A8. 当社の金属 3 Dプリンタは切削機能を持つ複合加工機のため、加工面の面質と形状の精度が非常に良い点が特徴として挙げられます。レーザーで溶融するだけでは、金型で使用できる精度のものを作ることが出来ません。当社の金属 3 Dプリンタは表面の加工精度が非常に高く、巣（造形物の内部にできる小さな穴）がほとんど発生せず、金型のキャビティにも使えます。

また、金型内部に冷却配管を配置できることにより、成形品の変形を防ぐことができます。従来の金型では成形品の変形を防ぐことができず、金型を分割する等の調整が必要で、金型の部品点数が非常に多くなっていました。しかし、金属3Dプリンタでは冷却配管を内部に配置した金型により成形品の変形を防ぎ、また一体で製作できるため、金型部品点数の大幅削減が可能となります。

このように金型製造においては、当社の技術力が発揮でき、優位性があります。また、価格面における競争力もあります。